

平成 25 年度農業関係試験研究課題の推進に係る外部評価について

農業関係試験場では、試験研究課題の設定・試験内容・成果の公表などを客観的かつ公正に判断し、広く県民に開かれた試験研究を効率的に行うため、外部評価委員会を設置し、作目ごとに委員会を開催しています。

平成 25 年度の実施状況は、以下のとおりです。

1 評価対象研究課題と評価方法

主に県単独事業の県単プロジェクト研究^{注)}（県単プロ）を対象とし、事前と事後に評価を行います。

各課題について、「現場のニーズ」や「研究の新規性」、「必要性・緊急性」、「効率性・妥当性」、「期待される効果」など 5 項目について審査し、この審査結果をもとに下表に基づいて総合評価を行います。

注) 技術的に目途が立った技術開発研究について、3 年程度で実用化を目指す研究

	評価	内 容
◆ 新規課題の事前評価	A	開始する
	B	一部変更して開始する
	C	開始するには大幅な変更が必要である
	D	開始しない

	評価	内 容
◆ 終了課題の事後評価	A	顕著な成果があった
	B	おおよそ成果があった
	C	解決されない部分が多い
	D	成果が見られない

2 平成 25 年度評価対象研究課題数

分野 (委員会)	県単プロ			計
	事後	中間	事前	
作物	2	0	1	3
果樹	2	0	1	3
野菜・花き・菌茸	3	1	1	5
畜産	1	0	1	2
計	8	1	4	13

3 外部評価委員の構成

専門的・技術的な視点に加えて、担い手農業者の支援、農業の多様化・個性化の推進という視点からも研究課題の評価を受けるため、学識経験者、農業者、関係団体職員を委員に選定している。

平成 25 年度の外部評価委員は以下のとおりです。

分野	所属機関・役職	氏名	備考
作物	(独)農研機構 中央農業総合研究センター研究管理監	渡邊 好昭	学識経験者
	信州大学農学部 食料生産科学科 准教授	渡邊 修	学識経験者
	柄木田製粉(株) 取締役、本社事業所長、本社工場長、開発室室長	宮崎 充朗	関係団体役員
	大規模稲作経営者(後継者)	斉藤 岳雄	農業者
果樹	(独)農研機構 果樹研究所 栽培・流通利用研究領域長	檜村 芳記	学識経験者
	信州大学農学部 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター教授	春日 重光	学識経験者
	農業者(長野市農業委員)	小山 英壽	農業者
	農業者(長野県果樹研究会青年部 元会長)	永井 秀樹	農業者
野菜	(独)農研機構 野菜茶業研究所 野菜病虫害品質研究領域長	今田 成雄	学識経験者
	農業者	岩垂 聡	農業者
	信州グリーンサポート代表(花き栽培農家)	木下 穂積	農業者
	小井戸微笑園園主(キク苗生産)	小井戸輝雄	関係団体役員
	信州大学農学部応用生命科学科 教授	福田 正樹	学識経験者
	農業者	海野 升男	農業者
畜産	(独)農研機構 畜産草地研究所 御代田研究拠点 放牧研究調整監	濃沼 圭一	学識経験者
	麻布大学 獣医学部准教授	伊東 正吾	学識経験者
	酪農家・伊那酪組合長	桃沢 明	農業者
	ブラウンエッグファーム 代表(養鶏専業農家)	滝沢 栄喜	農業者

4 開催日

分野(委員会)	期日	時間	会場
作物	10月4日(金)	13:30~15:30	農業試験場八重森会議室
果樹	9月18日(水)	15:00~17:00	長野合庁南庁舎601会議室
野菜・花き・菌茸	9月18日(水)	13:30~15:30	野菜花き試験場 大会議室
畜産	9月17日(火)	14:00~16:00	畜産試験場

5 評価対象研究課題と評価結果

(1) 評価結果への対応

今回の評価点別課題数は下表のとおりです。

事後評価結果は「B」(おおむね成果があった)が3課題。「C」(解決されない部分が多い)は1課題。中間評価は「A」(継続する)が1課題、「B」(一部変更して継続する)が1課題。

事前評価結果は、「A」(開始する)が6課題、「B」(一部変更して開始する)が2課題。

分野 (委員会)	事後評価					中間評価					事前評価					
	評価点	A	B	C	D	小計	A	B	C	D	小計	A	B	C	D	小計
作物	2					2							1			1
果樹			2			2						1				1
野菜・花き・菌茸	1		2			3	1				1	1				1
畜産			1			1						1				1
計	3		5			8	1				1	3	1			4

(2) 評価対象研究課題と主な提言等

分野	No	事業名	試験研究課題	主な提言等	評価
作物	1	県単プロ (事後)	長野県に発生した雑草性赤米の総合防除対策	<ul style="list-style-type: none"> 防除マニュアルの個別技術は完成度が高い。 実際の生産現場で効果を実証してほしい。 	A 顕著な成果があった
	2		長野県に発生したコムギ縮病の緊急対策の確立	<ul style="list-style-type: none"> コムギ縮病の抵抗性を評価し、新品種を奨励品種に採用できたのは大きな成果である。 新しい病原レースが侵入した時、品種対応(育成)までの時間を埋める技術が必要である。耕種的防除法も病害の拡大を防ぐ技術として検討してほしい。 	A 顕著な成果があった
	3	県単プロ (事前)	コシヒカリと識別困難な雑草イネの防除対策技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> 集荷施設でのモニタリング法、発生圃場の特定などの手法に少し問題がある。聞き取り調査などを検討する必要がある。 現行の防除対策マニュアルの効果を十分に検証してほしい。 	B 一部変更して開始する
果樹	1	県単プロ (事後)	リンゴ「シナノピッコロ」、「長果19」の省力安定生産及び早期商品化技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> 着果基準、摘花剤・摘果剤の利用、着色管理法など個々の技術については一定の成果を得ているが、「丸かじりりんご」省力安定生産技術を体系化するには至っていない。また、「丸かじりりんご」を新たな商材として定着させるには、本課題で得られた成果をもとに、生食用市場出荷だけではなく幅広い用途を含め検討すべきであると考えます。 	B おおよそ成果があった
	2		リンゴの新しい化栽培における点滴かん水による土壌水分管理技術	<ul style="list-style-type: none"> 新しい化栽培では苗木代など多大な開園費用を必要としているが、さらに費用が掛かることは課題である。普及を前提としたコストの問題について、さらに検討が必要である。 	B おおよそ成果があった
	3	県単プロ (事前)	ぶどう「ナガノパール」、「シャインマスカット」の出荷時期拡大を目指した貯蔵管理技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生産現場において緊急性、必要性が高い課題であり、課題解決への期待も大きい。 目標とする貯蔵期間、品質及び商品化率を明確にする、コスト上昇を抑える工夫など普及を意識した研究計画を構築し、新型冷蔵施設の性能評価にとどまらないよう検討されたい。 	A 開始する

分野	No	事業名	試験研究課題	主な提言等	評価
野菜 花き 菌茸	1	県単プロ (事後)	アスパラガス長期どり栽培における多収技術の確立	・今回の成果でどの程度収量アップが期待できるか明確にする。	B おおよそ成果があった
	2		レタス・セルリーの土着天敵寄生蜂を活用したナモグリバエ防除体系の確立	・環境保全型防除体系がきちんと整理できている。 ・天敵活用は個人対応でなく、地域として取り組む必要がある。	A 顕著な成果があった
	3		廃液対策により環境負荷を軽減できるイチゴ養液栽培技術の開発	・個別技術はわかるがトータルとしてどのような廃液処理になるのか整理が必要である。 ・システムの購入費等経営評価が必要である。	B おおよそ成果があった
	4	県単プロ (中間)	レタス根腐病複数レース発生地域に対する抵抗性品種を利用した緊急対策技術の確立	・かなり選抜を行って、絞り込まれてきている。抵抗性品種の作出は近いため、継続して試験を実施していただきたい。	A 継続する
	5	県単プロ (事前)	アスパラガスの需要期出荷に対応する短期株更新栽培技術の開発	・輪作体系を組むことがポイントとなるため、組み合わせる品目の検討が必要である。 ・数値目標を明確にする。	A 開始する
畜産	1	県単プロ (事後)	DDGS 及び飼料米を用いた発酵 TMR による黒毛和種育成・肥育技術の開発	・農家個人で取り組むことは難しいが、近年増えている TMR 供給センターを活用すれば、普及につながる。 ・ビタミン A 欠乏の対策を示す必要がある。	B おおよそ成果があった
	2	県単プロ (事前)	ルーメンアシドーシスの発生を防止する飼料給与モデルの確立	・生産現場からの要望は根強くある。 ・多回給餌は効果が高いと思うが、今までと同じ給与回数で効果のある方法をみいだしてほしい。	A 開始する

*評価はA～Dの4段階

「A」：顕著な成果があった（終了課題）、開始・継続する（新規・継続課題）

「B」：おおよそ成果があった（終了課題）、一部変更して開始・継続する（新規・継続課題）

「C」：解決されない部分が多い（終了課題）、開始、継続するには大幅な変更が必要（新規・継続課題）

「D」：成果が見られない（終了課題）、開始しない・中止する（新規・継続課題）